



大地整発第 137-2 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 殿

大槌町長 加藤 宏暉



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

日頃、当町の行政にご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号にて照会のありましたこのことにつきまして、別紙のとおり提出いたします。

なお、今後とものご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県大槌町

- 1 三陸縦貫自動車道につきましては、隣接の釜石市と山田町が既に完工や着工をしている中で、当町はいまだ未着工の状況にあります。

三陸縦貫自動車道に係る大槌町部分は、平成4年に事業化認可をされ、平成9年に整備決定区間に格上げされた釜石山田道路23.0kmの区間内にあり、北側の隣接自治体である山田町区間については、すでに暫定供用をされており、また一方の隣接自治体である釜石市区間につきましては工事に着手しているところであります。

しかしながら大槌町工区においては、調査すら未着工であることから町民はなぜ中間の大槌町工区のみが工事に未着手なのか、純粋な思いで疑問と不満を感じているところでもあります。つきましては事業決定区間の大槌町工区におきましても、早期の計画的な事業推進に係る年次整備計画等の地域住民説明を行い、町民の早期着工の要望にこたえる必要があると思います。

町民は、高速交通網が地域にもたらす大きな経済効果はもとより、今後、宮城県沖地震の発生が高確率で予想され、大津波被害も想定されていることから、避難道路、内陸部からの緊急災害支援輸送道路としても、三陸縦貫自動車道の必要性を強く認識しているところでもあります。

- 2 道路特定財源につきましては、政府において平成21年度から一般財源化となることが閣議決定され、今後の道路財源の先行きは不透明感が否めない状況であります。

大槌町では、平成20年度の92,000千円の道路予算を確保した中で、道路財源を活用した地方道路交付金事業（地方道路整備臨時交付金）30,000千円を導入し、住民の生活に最も密着したライフラインとしての道路整備、特にも道路管理と住民生活を結ぶ道路側溝の改修整備を進め、家庭雨水排水対策も兼ねた「やさしい道の匂い」を感じる道路整備を推進していることから、地域住民から好評を得ているところでもあります。以前の地方道路整備臨時交付金制度が無い道路側溝の改修整備事業は、町の一般財源を充てていたことから事業個所が線的に固定され、地域面的な道路環境整備としては推進が図られない状況でありましたが、地方道路整備臨時交付金制度により地域をカバーする道路環境整備の推進が可能になっているところでもあります。

つきましては、当町の住民生活に密着した道路行政の推進には、地方道路交付金事業（地方道路整備臨時交付金）は

欠くことのできない道路整備制度であることのご理解をいただき、なにとぞ道路財源の確保を図りながら地方道路整備臨時交付金制度の存続について特段のご配慮お願い致します。

なお、平成20年度に創設された地方道路整備臨時貸付金（無利子貸付制度）については、大槌町でも地方道路整備臨時交付金制度の町負担財源に充当する財源として有効に活用をさせていただきたいと考えていたところでありますので、地方道路整備臨時交付金制度と合わせて継続した存続をお願いするものであります。

- 3 昨今の国県に係る補助金事業は、費用対効果の発想が優先し、ともすれば過疎、辺地地域への生活環境、道路環境に対する改善施策を、利用効果の観点から必要悪として認識する傾向が顕著になっているように思います。

地方であるからこそ、山があり海があり、当然ながら平地よりも工事費用が嵩む地形を有しているものですが、そこは人口集中地区では無いことから費用対効果の犠牲になっているように感じるところであります。地域住民の地域に沿った最低限の社会資本の整備としての道路整備を要望する声が、費用便益比（B/C）の名のもとに排除され、そこに生活を営む国民、地域住民がいることが無視されているようではありません。

例をあげれば大槌町の戸沢地区の約22戸の世帯住民は、水道もなく時として枯渇する沢水で生活していますが、他地域との生活の格差を切実に感じることから、我慢できる水よりも、孫、子の定住意欲を推進する意味からも質的生活向上を図る必要があるとして、それには盛岡地区に短時間で通じる道路環境整備、主要地方道大槌川井線土坂トンネル整備を強く望んでいるところであり、これが道路整備を要望する「地方の声」であります。町としても、屈折した道路から冬季の積雪による危険な通行が解消され、また県都に通ずる車両通行時間が15分も短縮となるこの道路整備を強く要望しているところであり、産業振興、定住促進、観光振興等などの沿岸振興など地方の「真に必要な道路」として大きな期待をしているところです。

費用便益比（B/C）が優先することは、地方の住民が都会に集中することに拍車をかけていることであり、地方の時代、地方分権、一極集中の解消とする施策にも逆行するものであります。

今一度、地方の声、地方の痛みに耳を傾けていただきたいと思います。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状 1 三陸沿岸の幹線道路は国道45号線1本のみであることから、地震・津波等の災害で寸断された際には大槌町は陸の孤島となります。 2 国道45号線は、トンネル、橋梁などの重要構造物で形成されており、その施設は老朽化しています。 3 三陸縦貫自動車道では、近隣市町村では大槌工区のみが未着工のことから、町民から行政にたいしての批判が出ています。	○課題 1 国道45号が地震や津波災害時に寸断されると、町民の避難や救助活動、及び災害救援物資の輸送にも支障がありまたライフラインとしての大動脈としての機能が寸断されます。 2 新幹線、国道4号線までは2時間以上も要することから業務の効率化が悪く、物流に時間かかりすぎるとされ交通道路事情が悪いことから企業誘致が進まない状況であります。 3 大槌町付近の国道45号線は、朝夕の交通渋滞が慢性化しています。 4 内陸部からのアクセス道路が悪いことから、県外観光客は内陸部の観光地に集中し、三陸沿岸の国道45号線沿いの観光スポットに立ち寄らない状況です
4 逼迫した町財政の中で、老朽した舗装面の維持管理費用の捻出が困難であることから、道路の水たまり、亀裂穴の苦情が絶えません。	5 道路の補修財源は、一般財源で対応していることから、財源確保が課題。

5 主要地方道大槌川井線土坂トンネルは平成11年度の岩手県の「道路整備に関するプログラム」において、トンネル化が決定され、一部の用地は取得も終わりましたが、国・県の費用対効果算定方法・評価基準が変わったとの理由で、その以後は頓挫しているところであり、地元行政とすれば地域に説明がつかない現状があります。

6 国・県の費用対効果の発想が大きな壁となり、地域住民からは行政不信を招いています。

6 病院の専門医が不在となり、宮古、大船渡の拠点病院へ片道1時間30分もかけて町民が通院している現状であります。

7、町民は、急病になった際の一刻も争う緊急事態に、長時間をかけて病人を搬送することに大きな不安を抱えています。また重症重病の際は、盛岡市に2時間30分もかけて搬送しています。道路事情が「人の命」を握っている状況であります。

②—2 地域の目指すべき将来像

三陸縦貫自動車道が整備されると

1 地域経済が活性化します。

○物流の効率化が進み、企業の進出が図られやすくなります。

三陸縦貫自動車道が開通すると、町内の各産業に係る生産物において、都市への流通が円滑になり、地域経済が活性化になります。

また、物流の高速化により、企業の誘致が可能となり、雇用対策及び定住対策が充実される。

○観光客が当地域に短時間でアクセス可能になります。

風光明媚なリアス式海岸への観光客の入込数の増加が図られるとともに、冬季の降雪が少ない気候条件から、通年滞在型観光の推進が図られます。

2 安心・安全に生活できます。

○高度救急医療機関に短時間でアクセス可能になります。

三陸縦貫自動車道が開通すると、産婦人科医が所在する病院や、高度救急医療機関に短時間の連絡が可能となり「命を守る」道路として、安心・安全な住民生活に寄与される。

○津波災害時に迅速な避難、救命活動が可能になります。

三陸縦貫自動車道が開通すると津波による寸断がなく、避難・救命活動を迅速に行うことが可能になり、また内陸部からの災害支援物資の輸送も円滑になります。

③道路施策の重点事項

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
地域経済の活性化	・三陸縦貫自動車道の早期着工整備 ・主要地方道大槌川井線土坂トンネルの早期着工	・道路事情がよくなれば、企業誘致の促進が期待されます。 ・縦貫道等が整備された際には、中央市場における第1次産業生産物の市場鮮度が上がることから、生産者の所得向上が期待できる。また都市消費者と地元生産者の直接交流が促進される。 ・高速流通網の確立による物流の時間短縮が図られ企業の生産拡大が促進されます。 ・中央との連絡道路が整備されることにより地域と短時間に結ばれることから利便性が向上され、地域への定住意欲が促進されます。 ・観光客の増加が期待できます。	
安全・安心な生活	・三陸縦貫自動車道の早期着工整備 ・主要地方道大槌川井線土坂トンネルの早期着工	・盛岡、宮古、大船渡の高度救急医療機関や拠点病院への、短時間での円滑な搬送が可能となり「命」を守る道路として期待されます。 ・津波・地震等の災害緊急非常時における避難道の確保が図られ、住民を災害から守ることができます。	